



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2011.10

No.330

S H I R A K O B A T O



だから好き、だから大切、定例探鳥会！

山部直喜(三郷市)

当会では、年間120回ほどの探鳥会を実施しています。その中でも特に大切にしているのが定例探鳥会です(下表参照)。今月号は、その定例会に参加している会員の方々とリーダーの声を中心にレポートしました。



● 参加者の声から Q&A

Q：定例探鳥会の楽しみ、楽しいこと

A：「いろんな人との出会いです」

「行けば必ずハプニング。久しぶりの人に会うのも楽しいハプニングです」

「顔なじみの人に出会えるのが楽しい」

「リーダーに出会えるのが楽しい。皆さんユニークな人ばかり。鳥以外のこともたくさん教えてもらえる」

「地元の人とのつきあい。話しかけたらナスをもらった」

「鳥の名前だけでなく、生活も見ようになり見方が広くなりました」

「自分の経験を話すことで経験を共有できる、理解してもらえる」

「埼玉に引っ越して来たとき、話し相手がなかなかできなかった。でもここで、同じ趣味の人と話すのはとっても楽しい」

「はしご探鳥会。今年もアオバズクに会えました」

「いつもの鳥が出ると安心。出ないと心配」

「一年の自然のサイクルがよく分かるよ」

「特に意識していない。どれも楽しいよ」

「季節折々の鳥を楽しんでいます。季節変化を肌で感じることができます」

定例探鳥地	平均参加人数	平均出現鳥種数	開始	年間開催数	総回数	だから好き！
さいたま市 三室地区	56.1	30.3	1984.5.20	12回	301	当会発足以来の定例探鳥地、心のふれあい。
熊谷市 大麻生	37.2	31.9	1984.5.20	12回	292	当会発足以来の定例探鳥地、県北の中心。
北本市 石戸宿	49.7	28.7	1984.7.8	6回 (偶数月)	117	赤、青、黄色の小鳥たち。時々珍鳥。
狭山市 入間川	28.1	33.3	1990.7.22	6回 (奇数月)	109	出現鳥種数。ヒメアマツバメ、ササゴイ。
さいたま市 民家園周辺	51.6	32.2	1995.12.3	5回 (2,4,6,10,12月)	73	冬の猛禽

『しらこぼと』329号までの記録から

「季節の移り変わり」
 「俳句作りの題材集め」
 「先輩からマイ・フィールドを持ってとアドバイスされた。しかし見方がわからない。ここで勉強していると、身近なところの自然が少しずつ見えてきた」
 「引込み思案の子だと思っていたが、いろんな人と好きな世界を共有できて、大人と話せるようになった」
 「お弁当よ。この年になって、自然の中でお弁当を食べることってなかなか無いよ。コンビニ弁当でもとってもおいしい」

● リーダーにききました Q&A

Q: 楽しみ、楽しいこと、工夫など

A: 「何年も会わなかった人が突然来てくれることがある。新しい家族とともに」
 「リピーターが増えとうれしい」
 「初めて来た人がまた来てくれた時」
 「子供が来るとうれいねえ」
 「やはり人との出会いです。ここはアウトホームですよ」
 「毎月やっているの、微妙な景色や季節の変化を感じてもらえる」
 「毎月の定例探鳥会をすることで、地域の行事や見沼田んぼにおける各種自然保護活動において、当会の確固たる地位を得ることができた」
 「下見は欠かさない。特に安全面で」
 「水筒の中身は必ず水です。怪我をしたときに傷口を洗えるから」
 「始める前に、この地のその月の見所を説明しています」
 「初心者に努めて声をかけるようにしています」
 「リーダーでなくとも、鳥以外で詳しい



ここでは探鳥会終了後、弁当組が多い。

人、そこをフィールドにしている人がいる。その人の出番を考えています」
 「植物、昆虫、キノコなどに詳しいリーダーの活躍場面を心がけています」
 「鳥博士の子供を活躍させている」
 「いろんな探鳥会に出て、他のリーダーの話術を学んでいる」
 「話すときは初心者に話すように気をつけている」
 「そこで生活している人の場に望遠鏡や双眼鏡を向けない」
 「誰もが体験できるようなテーマを決めて臨んでいる」
 「リーダーとして公平性に留意している」

● レポートしてみても感じたこと

① 野鳥に親しむ早道は探鳥会に出ること

1人での探鳥には限界があります。探鳥会では、1日で驚くほどたくさんの知識を得ることができます。

② 出会いを大切に

やはり探鳥会でも、人と人との出会いが大切なんです。

③ 体験を学力に活かす

編集子は、探鳥会に参加する子どもたちの中に、体験を学校の学力に活かし、目的を持って生活する子を何人も見てきました。自主的な知的好奇心を育てたいものです。

④ 定例探鳥会は定点観察だ

定例探鳥会では、特別な鳥が出るわけはありません。しかし、毎月のように通い続けていると、身近な自然の中にも、豊かな命の営みがなされていることにあらためて気づきます。

だから好き、だから大切、定例探鳥会！



野鳥記録委員会最新情報

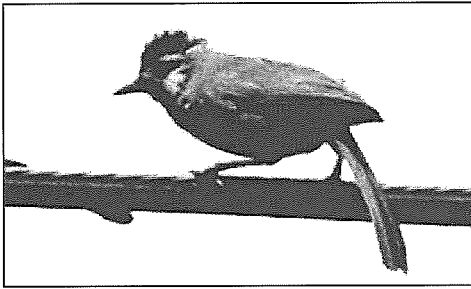
●特定外来生物カオジロガビチョウの繁殖

分類 スズメ目チメドリ科ガビチョウ属

学名 *Garrulax sannio*

英名 White-browed Laughing Thrush

2011年7月末に、会員の小林政一さん(本庄市)から写真を同封した問い合わせの手紙が届きました。「仕事の関係で伺っている(本庄市内の)お宅の庭木(モクセイ)に巣を作り、盛んに入出入りしている鳥がいます。気づいたのは7月15日ころ。図鑑を見ても種名がわかりません」とのこと。大きさが20cm位、力強く澄んだ声がよく響く、あまり人を恐れない、雌雄ほぼ同色などの特徴が的確に記載されていました。



写真の中の1枚を拡大しました。これでは顔の前部が黒く陰になっていますが、元写真では、眉部と頬部の白が目前で幅広く繋がっていることが分かります。これはカオジロガビチョウです。

本種はガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウとともに「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(略称外来生物法)」の特定外来生物に指定されています。環境省のホームページによれば、東アジア・東南アジアの熱帯・温帯の下層植生が発達した環境に留鳥として広く生息し、日本国内では平成21年(2009年)度までに群馬・栃木・茨城県に生息していることが確認されています。「生態系に関わる被害」として、「ガビチョウ類の定着が確認されている九州・本州の低地林等の里山的森林において、これらの種が最優占種となり、群集構造が著しく変化している。また、長期的には在来種

への直接・間接の負の影響も懸念される。ハワイ諸島においてはガビチョウが高密度で生息し、在来鳥類の衰退の一因となっている。カオジロガビチョウは香港に侵入している」とあり、日本国内のカオジロガビチョウによる直接の被害については伝えられていませんが、「被害を及ぼすおそれがあるもの」として指定されていると思われます。

本県では特定外来生物鳥類4種のうち、ガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウの3種はすでに生息が確認されていましたが、本種は、2010年6月6日北本市石戸宿探鳥会で観察された(本誌2010年10月第318号)のが唯一の例でした。

8月なかばに届いた小林さんの続報によると、8月11日、同家のご主人がヒナ2羽の巣立ちを確認したとのこと。8月13日、小林さんもヒナを写真撮影しました。残念ながらその写真は小さくて掲載できませんが、県内における本種の繁殖が初めて確認されました。

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

(2005年6月1日施行)

【目的】 特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止する。そのために、問題を引き起こす外来生物を特定外来生物に指定して取扱いを規制し、防除等を行う。

【特定外来生物】 外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定する。生きているものに限る。卵、種子も含まれる。鳥類4種、哺乳類21種、魚類13種など。

【規制】 野外へ放つ、植える、まく、譲渡、引渡し、販売が禁止。飼育、栽培、保管、運搬、輸入が原則禁止など。例えば特定外来生物を捕獲した場合、飼育はもちろん、持ち帰ること(運搬)が禁止される。

野鳥情報をお寄せください

こんな鳥見たよ！ こんな事してたよ！
今年も飛んで来たよ！ この場所では、この季節ではあまり見かけないかな？ ちょっとみんなに伝えたい野鳥の話、季節感のある情報、見慣れた鳥のちょっと面白い行動など、様々な情報をお待ちしています。

ただし、公開することによって生息に影響を与えるおそれのある情報、巣や卵に関する詳しい情報、誤りではないかと疑われる情報、同定には慎重な観察を要する稀な鳥なのに、写真などの客観的な裏づけ、または読んだ人が納得できるような記述のない情報などは掲載しません。

同じ人から多数の情報が寄せられた場合、同じ鳥について多数の情報が重複した場合、あまり季節や場所に関係なく日常的に見られるものなどは、取捨選択させていただきます。

郵便で、または toridayori@hotmail.com にメールでどうぞ。

表紙の写真をお待ちしています

季節感を最も大切に選んでいます。例えば10月に撮影した写真を直ちに送っていただくと、次の編集作業の日は11月になり、その時は12月号の表紙の写真を選びます。2ヵ月ほどのズレが生じてしまいます。

そこで、10月に撮影した写真はしばらく温存しておき、翌年9月第1土曜日の少し前に郵便で、または yamabezuku@hotmail.com にメールで送っていただくと、ちょうどぴったりの時季になります。

当然ですが、巣の中の写真、巣の近くに長時間居座って撮影したと思われる写真、幼鳥や珍鳥を深追いしたと思われる写真などは一切採用できません。

珍鳥である必要はありません。ありふれた鳥のちょっとしたしぐさ、思いがけない一面を写しとめた作品、大歓迎です。常連さんに対する評価は自然と厳しくなり、初めての方のご投稿には、当然甘くなります。

せっかく表紙の写真にご投稿いただいても、

カット写真に使わせていただく場合もあります。野鳥情報欄のカット写真でしたら、2〜3ヶ月遅れても大丈夫。それも含めて採否については、すべてお任せいただきますので、よろしく。

特集記事の企画はありませんか

長年観察してきた結果がまとまったので発表したい、こんなことを考えているけど皆はどう思うかな、私の探鳥地を紹介したい、鳥だけではなく私はこんなことに興味を持っている……会員の皆さんすべてに、それぞれの思いがあるはず。それを『しらこぼと』誌面に残してみませんか。

完成原稿になっていなくても、郵便で、または yamabezuku@hotmail.com にメールで、とりあえず概要を送ってみてください。相談させていただきます。

第21回鳥学講座

「ハシボソガラスとハシブトガラスの微妙な関係〜2種のカラスの環境利用と繁殖生態〜」

講師：吉田保志子（独）農業・食品産業技術総合研究機構主任研究員

日時：平成23年10月22日（土）14時
30分〜16時00分（開場14時15分）

場所：我孫子市生涯学習センター「アビスタ」
ホール（JR 我孫子駅南口からアビスタ・市役所経由のバスで「アビスタ前」下車）

参加費：無料（事前申込み不要）

主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館（電話04-7185-2212）、（財）山階鳥類研究所（広報担当電話04-7182-1101）

ハシボソガラスとハシブトガラスは、農村のカラスと都会のカラスと言われることもありますが、両方のカラスがいる場所もたくさんあります。2種のカラスが、それぞれの環境をどのように利用して生活しているのか、両種の相互関係はどうなっているのかなど、研究成果を中心に、知っているようで案外知られていない、カラスの生態に迫ります。



野鳥情報

さいたま市緑区大門 ◇5月9日午前7時30分頃、出勤時、会社の駐車場でハクセキレイが2羽。最初は1羽が疑傷をしているのかと思った。でも、よく見ると疑傷ではなさそう。♂が翼を開いて、体を斜めにして、♀にホッピングして近づいてゆき、♀のすぐ近くまでいくとジャンプして後ろに下がる。また、翼を開いて体を斜めにして近づきジャンプしてバックの動作を繰り返していた。ディスプレイなのだろう。見ていて微笑ましかった。身近な鳥でも発見があるものだ（藤原寛治）。

鴻巣市松原市営住宅付近 ◇5月17日、市営住宅付近の雑木林でキビタキのさえずり。早朝、散歩に出かけると、一昨日軽井沢では十分確認できなかったキビタキのさえずりが聞こえてきた。我が家から僅かな距離の所で耳にすることができ感激したが、先日の軽井沢までの鳥見の距離を考えると複雑な心境（栗原喜芳）。

羽生市羽生水郷公園 ◇5月19日、カッコウの声と姿を確認した（中里裕一）。

桶川市若宮1丁目 ◇5月21日午前6時30分、自宅ベランダで西方からすがすがしいカッコウの声が聞こえてきた。毎年自宅近くで見られるカッコウだが、今年も忘れずにやって来た。カッコウさんありがとう（立岩恒久）。

蓮田市西城沼公園 ◇5月21日、気温が22℃なのに、もうハシボソガラスが口を開けて呼吸をしていた。5月22日、東沼のアシ原でオオヨシキリがさえずっていた。ここで聞いたのは初めてだ。東沼でツバメが何度も水切りをしながら飛んでいた6月3日、沼の周辺の草原でオオヨシキリが鳴いていた。ここでは珍しい。6月16日、ここでは珍しくホオジロ♂が休耕畑の雑木の枝でさえずっていた。6月20日、ヤマモモの実を食べる親鳥の近くで、ハシボソガラスの幼鳥2羽が餌をねだっていた。電線でカワラヒワが「ジーン」と鳴く日が多くなった。

コアジサシがほぼ毎日餌捕りにくる。近くで子育てしているのだろうか？ 7月5日、カラスの羽が落ちていたのが目立つ。換羽の時季が来たようだ。7月20日、晴に帰る前のひと時、ハシボソガラスの群れ50羽士が畑で収穫残りのキュウリを食べていた。7月29日、ツバメが9羽沼の上で飛び交い、ムクドリが100羽士畑に降りていた。群れる季節が来たようだ。8月3日、カワラヒワ10羽が電線に並んでいた。8月19日、サシバが1羽旋回。今季ここで初認（長嶋宏之）。

さいたま市大宮区大宮第二公園 ◇5月23日、コアジサシ1羽、池の上を飛び回り、何度も池に飛び込むが、見ていて気の毒になるぐらい、何も捕れない（小林みどり）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇5月27日、シジュウカラ成鳥2羽、幼鳥4羽十。幼鳥たちは、枝にとまって「チーチー」鳴きながら、翼をばたばた。その近くで両親はイモムシ捕りに余念がない。♂親は長さ3~4cm、鉛筆ほどの太さの虫をくわえ、枝にたたきつけてから1羽の幼鳥の口へ。すると幼鳥は、少し苦労しながらも丸飲みにして“完食”！ 6月7日、アオバトの声。6月14日から6月18日の間、この辺では見たことのなかったセグロセキレイ（成鳥1~2羽、幼鳥1羽）がキャンプ場に隣接した畑で何度か見られた（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（石橋～鷺山橋） ◇6月1日、コアジサシ1羽、魚をくわえて上流へ飛ぶ。ツバメ幼鳥4羽、岸辺の草に並んでとまる。そこへ成鳥1羽がやって来て給餌。オオヨシキリ2羽、川を挟んでさえずり合う。その近くでさらに1羽がさえずり、やかましいほどの縄張り宣言合戦。6月16日、オオヨシキリ1羽、時々さえずる。あんなに騒々しかったのに…（小林みどり）。

蓮田市蓮田 ◇6月4日午前6時、カッコウ1羽、10声鳴いて、飛ぶ姿を見る。今季初認。ツミ、オナガ。この数日オナガがやたら多い。6月5日、オオヨシキリ、セッカ、田んぼでよく鳴いていた（本多己秀）。◇6月12日午前9時30分、クロジ。竹藪から「フイーチッチ」の声。この10年で3回目、自

宅周辺にやってくる(本多己秀・久文字)。
◇6月22日午前5時10分頃と夕方、ツミが30~40分間「ケーケ・・・」と鳴いていた。7月9日午前2時、アオバズク1羽、家の前の大木で約60分間鳴いていた。真夏に声を聞くのは初めてのことで何かうれしい。7月14日午前2時~4時、アオバズクが庭の木にきて鳴いていた(本多己秀)。

さいたま市見沼区南中野 ◇6月7日、カッコウの声。6月18日、カワセミ1羽、住宅造成地を「チー」と鳴きながら飛ぶ。近くに水辺はないのに、不思議(小林みどり)。

越谷市大吉調節池 ◇6月13日午前10時、野鳥保護ゾーンから「コオ、コオ、コオ、」そして早いテンポで「ト、ト、ト、ト、」と鳴く声が聞こえてきた。しばらくして、アシ原から湿地へ、ヒクイナ1羽。アシ原の縁に沿って鳴きながら移動。鮮やかな朱色の夏羽でした。この地でヒクイナの声聞くのも、姿を見るにも私にとっては初めて(植平徹)。

加須市富士見町 ◇6月14日、タマシギの雛が2~3日前から座っている。抱卵しているようだ。6月30日、タマシギの雛3羽と親が静かに歩いていた。昨日は親が座っていたので、昨夜から今朝にかけて孵化したようだ。その他、セッカ、ゴイサギ、コチドリ、ダイサギ、カルガモなど(中里裕一)。

春日部市樋堀 ◇6月20日午前10時頃、倉松公園の桜の木にコゲラ1羽。コンコンコンと枝に穴をあけていました。この近辺で初めて見ました(西内直子)。

羽生市羽生水郷公園 ◇6月25日、ツバメの巣立ち雛が11羽、親が来るのを芝生でジッと待っていた。複数の巣から巣立った子ツバメだろう。今年生まれの若いモズが枝先から草むらに飛び降りた。バッタのような物をくわえて元の枝に飛び上がった。ここで繁殖したようだ。繁殖羽のカイツブリが2羽で巣作りをしていた。コアジサシ2羽が飛び交い、4羽が地上にいた。成鳥1羽の足元に3羽の雛がチョコチョコ歩いていた。コチドリ2羽が早足で歩いている。今

年は営巣しないのだろうか。草むらに新しいタカ落しの跡があった。オナガのようだ。その他、ヒバリ、セッカ、ホオジロ、キジ、オオヨシキリなど(長嶋宏之)。

久喜市所久喜北緯36.0605 東経139.6512

◇6月30日、ダイサギ、コサギ、アマサギなど30羽+の群れが田んぼで採餌していた(長嶋宏之)。

小川町松郷峠~定峰峠 ◇7月18日、キビタキ、クロツグミ、ホオジロ、ウグイス、メジロ、チョウゲンボウなど(本多己秀・久文字)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇7月31日、コヨシキリが巣に餌を運び込む動作を繰り返す。巣は見えない。餌をくわえた親を短時間撮影して早々にその場を離れた。8月4日、コヨシキリはアシ原をあちこち移動しながら短くさえずっている(下写真)。雛が巣から出たのだろう(海老原美夫)。



川越市の田んぼ ◇8月2日、セイタカシギ成鳥2羽、幼鳥2羽。暑い中ふじみ野駅から新河岸駅周辺まで歩いて探しました(小松裕子)。

蓮田市関山 ◇8月13日午前1時30分、アオバズクの声聞いた。今季の終認(河野順子)。

表紙の写真

カッコウ目カッコウ科カッコウ属ツツドリ

昨年10月、公園の林で、ツツドリ若鳥が大きめのイモムシを飲み込んでいました。

又部綱仁(さいたま市)



行事案内



モズ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費： 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物： 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻： 特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお集まりください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月2日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)、長谷川、関口

見どころ：高い青空のもと、豊かな自然を演出してくれる秋本番の石戸宿です。鳥たちは季節をたがうことなく渡りの真最中。足元の草花、昆虫などにも秋を見つけましょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月2日（日）

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：須崎、手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、赤堀、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：彼岸を過ぎると見沼は秋の空気に変わり、渡りの季節になります。今年はどんな渡り鳥たちに会えるでしょうか。ゆっくりと歩きながら探しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：榎本(秀)、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、鶴飼、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島

見どころ：今日のテーマは「ツグミ科のヒタキとヒタキ科のヒタキ」。野鳥の森を目指して歩きながら、最初にノビタキやエゾビタキを見つけるのはだれ？ 10月とはいえ帽子と飲み水は忘れずに。

『しらこぼと』袋づめの会

日時：10月15日（土）午後3時～4時頃

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月16日（日）

集合：午前8時15分、JR京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、島山、柴野

見どころ：芝川に遊歩道が出来ました。ゆっくり冬鳥を探せます。探鳥会終了後は、

博物館から「クイズラリー：見沼たんぼを歩いてクイズに答えよう!」に出かけてみませんか。当会も参加している「見沼たんぼ市民ネット」主催のイベントです。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月22日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36
→栗橋7:56→柳生8:05着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、植平、進士、山田(東)、茂木、佐藤、野口(修)、佐野

見どころ：秋の渡良瀬遊水地、いろいろなタカ類がやってきます。気の早いアオジ、ジョウビタキなどの小鳥たちも来ています。カンムリカイツブリをはじめ、谷中湖の水鳥たちはどうでしょう？皆で声かけ合って探しましょう。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月22日(土)～10月23日(日)
詳細は9月号をご覧ください。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月23日(日)

集合：午前9時15分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR川越線大宮8:36→川越で9:06発高麗川行きに乗り継ぎ、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本(真)、山口、中村(祐)

見どころ：秋も日増しに深まり、さわやかな時季になりました。渡りの鳥たちも例年のように来てくれていることでしょうか。公園の池にはカモの第1陣も到着予定です。定番のカワセミ、モズたちもお待ちしています。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月30日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス8:50発、行田車庫(佐間経由)行きで「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR行田駅東口から、行田市内循環バス9:05発にて「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：内藤、岡安、大坂、立岩、栗原、茂木、高橋(ふ)、長谷川、竹山、相原(修)、相原(友)、関口

見どころ：近年は落ち葉の時季が遅くなり、鳥の姿も見つけにくいさきたまの秋ですが、赤く色づいた柿に群れる鳥たちは絵になります。ジョウビタキ、カモの第1陣も到着済みです。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：11月20日(日)

集合：午前6時45分、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後8時ころを予定。

費用：6,000円の予定(貸し切りバス代、高速料金、現地バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。

定員：25名(先着順、当会員優先)、最少催行人数は20名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入で必要)、電話番号を明記して、入山博

10月1日以降の消印を有効受付とします。

担当：入山、玉井、藤澤、星、浅見、持丸
見どころ：今年は、西ノ湖から千手ヶ浜に行く予定です。途中の川沿いでは、ワシやタカの仲間3種を期待します。また、歩く道々、目の前の木々で赤い鳥を探します。冬が平地よりひと月は早い奥日光です。防寒対策は忘れずに。



行事報告

5月15日(日) 栃木県 奥日光

参加：23名 天気：晴

カワウ マガモ ヒドリガモ キンクロハジロ
ミサゴ トビ ノスリ オオバン キジバト ア
カゲラ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキ
レイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ
ノビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ヤブサ
メ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ
センダイムシクイ キビタキ サメビタキ エ
ビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ
シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ イカル ニュウナイスズメ スズメ ム
クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
ス(46種) 昨年の経験から今年は2回に分けて、
その1回目。アカヤシオの綺麗な花を見ながら
いるは坂を上がり、湯元バスターミナルに到着。
イカルの美声のお迎えで別世界に來たと実感。
湯ノ湖畔では、至るところでムシクイ類を観察
できた。今回の探鳥会で一番凄かったのが、
湯滝の下の展望台からの鳥見。この辺に
いる小鳥たちが集まってきたかのように右
から左からと次々に姿を現し、参加者全員
が食事をするのを忘れるほど。湯川沿い
では、キビタキ等を見る。戦場ヶ原では、
ノスリの識別で盛り上がり、キビタキが
綺麗に囀って探鳥会を終了。春の奥日光
は楽しい。(入山 博)

5月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：73名 天気：晴

カワウ アマサギ カルガモ コガモ コ
ジュケイ キジ バン キジバト カワセ
ミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨ
ドリ モズ ウグイス オオヨシキリ
セッカ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス(26種) (番外：ドバト) オオ
ヨシキリ、セッカ、初夏を告げる
鳥たちが五月晴れの見沼たんぼで
高らかに歌い、飛びまわる。相変
わらず、多くの元気な参加者が
笑顔を作る。何が三室へとみな
さんを引きつけるのかと、汗を拭
いながら思った探鳥会にな

った。

(楠見邦博)

5月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

相原修一、新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、増尾隆

5月22日(日) 栃木県 奥日光

参加：31名 天気：雨

カワウ マガモ カルガモ ヒドリガモ
キンクロハジロ ミサゴ トビ キジバト
カッコウ ツツドリ コゲラ ツバメ
イワツバメ キセキレイ ハクセ
キレイ ヒヨドリ モズ カワガラ
ス ミソサザイ コルリ ノビタキ
クロツグミ アカハラ ウグイス
メボソムシクイ エゾムシクイ
センダイムシクイ キビタキ オ
オルリ サメビタキ コサメビ
タキ コガラ ヒガラ シジュウ
カラ ゴジュウカラ アオジ カ
ワラヒワ ニュウナイスズメ
スズメ ムクドリ カケス ハシ
ボソガラス ハシブトガラス(43種)
前週に続いての2回目。曇り空
の中、大宮を出発。参加者の祈り
も虚しく現地に着いたら雨が降
り出した。ムシクイ類の囀りを
聞きながら湯滝に到着。湯滝
の下の展望台は前週同様に大盛
況だった。特に、キビタキは、
置物の様に動かなかったの
でじっくり見る事が出来た。
小滝を少し過ぎた所で、コ
ルリの囀りを全員で鑑賞。
雨足が強くなってきたので
急いで光徳まで行く。三本松
の駐車場で聞いたカッコウの
声が「また来年も来いよ」と
言っているようだった。(入山 博)

5月22日(日) 狭山市 入間川

参加：43名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ ササゴイ
ダイサギ アオサギ マガモ
カルガモ オオタカ キジ
コチドリ イカルチドリ
キジバト ヒメアマツバメ
カワセミ コゲラ ツバメ
イワツバメ ハクセ
キレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ オオヨシキ
リ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス(30種) (番外：
ドバト、ガビチョウ) 入間川
にやってくる夏鳥も勢ぞろい。
久しぶりに聞くオオヨシキリ
のにぎやかなさえずりが
楽しく、口の中のオレンジ色
がとてもきれいに見え

る。いつもはなかなか見つからないササゴイも3羽くらいいるようで、何度か見る事ができた。稲荷山公園に着くころに空模様があやしくなってきたが、なんとか無事終了。(長谷部謙二)

5月28~29日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 26名 天気: 28=曇、29=雨

カイツブリ アオサギ カルガモ キジバト カッコウ ツツドリ ホトトギス アカショウビン アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス メボソムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ サメビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス(44種) 台風の影響もあり雨を覚悟していたが、長野駅は薄曇りで土曜日はどうか持ちそう。森林植物園で記念撮影をしてから探鳥開始。みどり池で常連のカイツブリに挨拶して、オオアカゲラが営巢中とのことで先を急ぐ。途中はコサメビタキ、キビタキ、ニュウナイスズメ。トイレのところでノジコをかなり近くで観察できた。その後オオアカゲラ、キバシリ、クロツグミを全員で確認し、残るはアカショウビンだが、会うことができず声のみとなった。翌日は雨。小降りになったところで出発したが、雨音も大きく、なかなか探せない。朝食後は温泉組と探鳥組に分かれて再挑戦したが、クロジのみの収穫であった。過去最低の種類数であったが、じっくり観察できた種類もあって戸隠の魅力を再確認できた。(菱沼一充)

5月29日(日) 加須市 加須はなさき公園

雨のため中止。(長嶋宏之)

6月4日(土) 坂戸市 高麗川

参加: 24名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ ハヤブサ コジュケイ キジ イカルチドリ キジバト ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ

カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシブトガラス(32種)(番外:ガビチョウ)鳥の数は少なかったが、オオタカ、ハヤブサが飛翔し、定番のカワセミが出て、ホトトギスも鳴いてくれた。ガビチョウがひとときわ元気にあちこちでさえずっていた。木陰の少ないコースで夏のような暑さだったが、全員へばることもなく、探鳥を楽しめたのではと思う。(山口芳邦)

6月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 45名 天気: 曇

カイツブリ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト ホトトギス カワセミ アオゲラ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ サンコウチョウ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシブトガラス ハシブトガラス(25種)(番外:ガビチョウ)スタート早々にサンコウチョウの囀りが林の中から聞こえて来た。近くの人には伝えたが、2~3回聞こえた後、声がなくなったのでそのまま前進。鳥合わせの時の話では、声を聞いたのは前の方の人だけだった。直ぐに前進した事をお詫びしたい。その場に留まっていたら探鳥会にならなくなるかと判断してのことだったが。学習センターの話では、毎年渡りの途中で数日間滞在しているのが確認されているとの事だった。既に葉が茂っているので、姿の確認よりも声の確認が主だ。(吉原俊雄)

6月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 48名 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ コチドリ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシブトガラス(25種)(番外:ドバト)調節池の工事はひと休みのようで、久しぶりに重機の見えないフィールドを歩いた。すでに梅雨入り、蒸し暑さも加わった中、元気な姿を見せてくれたのはオオヨシキリ、セッカ、ホオジロなど、この地で繁殖する鳥たち。カッコウが見られなかったのは残念だったが、この時季のテーマ「身近な鳥たち」をじっくり観察できた。(手塚正義)



●当会は名称を戻す予定はありません

前号でお知らせした通り関東ブロックの中では「神奈川」が「神奈川支部」に名称を戻すなど、全国でほかに「旭川」「みやこ」「静岡」「和歌山」「京都」がそれぞれ「支部」に名称を戻したと、支部ネット通信で報告されています。

当会役員会でも話し合いましたが、「名称変更には少なからぬ費用と相当の人的エネルギーが必要である一方、今特に“支部”に戻さなければならない理由は見当らない。名称を戻すことは考えない」ということで意見が一致しました。

●見沼たんぼ市民ネットワーク関係

- ・ 7月 12 日に開催された第 2 回連絡会議に藤掛代表が出席しました。
- ・ 写真コンクール副賞として、『見る読むわかる野鳥図鑑』（安西英明著）7 冊を提供することとして、8月 9 日さいたま市の事務局に藤掛代表が届けました。
- ・ 8月 24 日に写真コンクール第 1 次審査が行われ、審査員として、楠見邦博監事が参加しました。
- ・ 今年は東日本大震災のため中止となった見沼たんぼクリーン大作戦、次回は 2012 年 3 月 10 日（土）に実施の予定です。

●ごめんなさいコーナー

会員の柴田和見さんからメール。

「9月号表紙に石絵の掲載ありがとうございました。コンピューターが故障していて別のコンピューターからメールしたため、名前が違ってしまいました。柴田尚紀ではなく、

柴田和見が正解です。訂正よろしく願います」。

●会員数は

9月 1 日現在 1,971 人。

活動と予定

● 8 月の活動

8月 13 日（土）9月号校正（海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・佐久間博文・藤掛保司・長嶋宏之・山田義郎）。

8月 21 日（日）役員会（司会：長野誠治、各部の報告・関東ブロック協議会出席者など）。

8月 22 日（月）「埼玉会報だけの会員」に向け 9月号を発送（倉林宗太郎）。

● 10 月の予定

10月 1 日（土）編集部・研究部会。

10月 8 日（土）普及部会。

11月号校正（午後 4 時から）。

10月 15 日（土）袋づめの会（午後 3 時から）。

10月 16 日（日）役員会（午後 4 時から）。

編集後記

この夏は、セミの様子が気になって、夜の公園に何回か出かけました。なかでも羽化したてのツクツクボウシは小さくて、はかなげで、実にかわいい（前月号 p6）。金色に輝いていて、羽根の透明感と言い……おじさんメロメロでした。（藤原）

メロメロのおじさんが、夜の公園を……読み方によっては実にあやしげ。私がこの夏楽しんだのは、木陰の風が涼しい昼の公園の、虫や花、昼寝。健全なじいさんです。（海）

今年の夏は昨年ほどでの猛暑ではなかった。原因のひとつに、全国的な節電ゆえにヒートアイランド現象が弱かったと思うのは私だけでしょうか。（山部）

しらこぼと 2011 年 10 月号（第 330 号） 定価 200 円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社